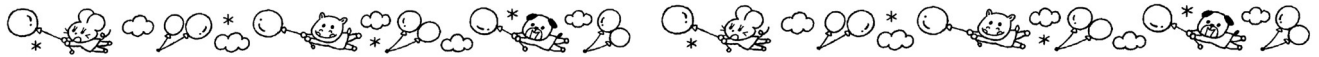




2024年度 3月号  
尚徳福祉会 生麦保育園  
奥山

さわやかな風が吹き始め、外であそびやすい季節がやってきました。保育園の玄関にはお雛様が飾られ、華やかな雰囲気です。

幼児組になり初めての運動会やおたのしみ会など、行事に参加したり、お話がじょうずになったりと心も体も4月に比べて大きく成長した子どもたちです。何ごとにも一生懸命に取り組み、頑張る姿にいつも元気と笑顔をもらっていました。うさぎぐみでの残り1か月を大切に、元気に楽しくすごしていきたいと思ひます。



### ～あるくのだいすき～

散歩に出かけるのが大好きで楽しみにしている子どもたち。“散歩に行きたい?”と聞くと『いこう!』と即答です。1番の人気は河川敷です。高速道路を走る車を見たり、鶴見線の電車を見たり、川辺の魚や鳥や虫などの生き物を見つけたりしています。河川敷での大人気スポットは階段と坂道とちょっとした崖があります。特に気に入りは“崖のぼり”です。

最初は、保育者が登ったり降ったりしている姿を見ていましたが、『やってみよう』と声が上がって挑戦してみました。初めは上手く登れずに、ズルズルと滑り落ちてしまうこともありましたが、何度かやっているうちに手や足をどこに置いたらいいのかを考えたりして、登りきることができるようになってきました。降りには滑り落ちるのが少し怖いと感じるとお尻を地面につけて滑り台のように滑ったり、横になりどんぐりのようにコロコロと転がって降りたりしていました。

『やったー』『のぼれたー』『おりられた』と大喜び。でも、ズボンや洋服を見ると泥だらけ草だらけ…頑張った証拠ですね!! 園に戻る道中に子どもたちからは『こんどいつくる?』『またきたいね』と次回を楽しみにしている様子が見られました。



### ～つくるってたのしいね～

制作が大好きな子どもたち、保育者が絵の具やハサミやのりなどの準備を始めると「なにをするの?」「みせて」「つくりたい」とテーブルの周りに集まってきました。2月は手袋とお雛様を作りました。

手袋は絵の具と筆を使い模様をつけました。絵の具は6色用意しましたが、描いているうちに色が混ざり、違う色に変化していくのを楽しんでいました。数色の色が混ざると「チョコレートになった」「おいしそう、てぶくろができた」と嬉しそう声を聞いて「ほんとだ、どれをまぜたの?」「やってみよう」と真似ている姿も見られました。飾りにふわふわの綿をボンドで貼りつけました。いつも使っているのりとはちょっと違う感触に「ベタベタがすごい」「つよい」「あらってもおちない」「おふろにはいって、おゆならおちるんじゃない」という声が聞こえてきました。

綿は好きな数だけどうぞと伝えると「うーん、なんこにしようかな」「4さいだから4こにしよう」「このふわふわ、きもちいいから10こ」「えーそんなにつけるの〜?!」とかわいい会話でした。

お雛様のは、絵本や紙芝居で何度か見聞きしているのを知っている様子でした。「きものをきているんだよ」「おひなさまのかみのけはながいよ」「おとこのひとは、ちゃんまげだね」など話をしながら作っていました。保育者はおだいりさまの笏(しゃく)とお雛様の扇子を折り紙で用意していたのですが、子どもたちは「これどこにつけてもいい?」「あたまにつけたほうがかわいいよ」「そうしよう」と個性豊かな素敵な作品になりました。

4月のことがつい先日のように感じます。子どもたちの笑顔、泣き顔、怒り顔…いろいろな表情を見ることができ、毎日とても楽しい時間を過ごしました。さまざまな所で、子どもたちの成長を感じた時はとても嬉しく思いました。

至らないことも多くあったと思ひますが、保護者のみなさまの温かいご理解とご協力のおかげで、とても楽しく過ごすことができました。子どもたちの成長を喜び、見守っていただけたこと、とても感謝しています。うさぎぐみでの時間は私たちの宝物になりました。1年間ありがとうございました。